



カケハシ・プロジェクト（米国／カナダ）
日本語弁論大会成績優秀者招へい（米国）
日本語学習者招へい（カナダ）・ジャパンボウル（カナダ）招へいの記録

1. プログラム概要

米国・日本語弁論大会成績優秀者 11 名、カナダ・日本語学習者 5 名、カナダ・ジャパンボウル大会^{（注）}の成績優秀者ら 5 名及び引率者 1 名が、2 月 13 日～2 月 19 日まで、東京都、神奈川県、愛知県を訪問し、ホームステイ、学校交流、視察、政府関係者等との交流を通じて、日本文化や社会、歴史について理解や知識を深めるとともに、親日度の一層の深化と参加者同士のネットワーク強化を図ることを主目的として実施しました。

（注）日本語を外国語として履修する高校生を対象に、日本語や日本文化、歴史、スポーツ、時事などについての知識を競うクイズ大会。1992 年に米国で始まり、2016 年からカナダ等でも開催。

【参加者】米国・日本語弁論大会成績優秀者（大学生）11 名、カナダ・日本語学習者（大学生）5 名、ジャパンボウル（カナダ）入賞者（高校生、大学生）5 名及び引率者 1 名 合計 22 名
（内訳）米国 11 名、カナダ 11 名

【訪問地】東京都、神奈川県、愛知県

【日程】

■ プレプログラム（オンライン事前学習）：

2 月 5 日（木曜日） 【来日前（渡航前）オリエンテーション】 事業目的・ミッション、日程説明、渡航上の注意、感染症対策等
来日までの指定期間 【動画視聴】 日本理解講義（Web Japan より選択）

■ 招へいプログラム：

2 月 13 日（金曜日） 成田国際空港及び羽田空港より入国
【来日時オリエンテーション】
2 月 14 日（土曜日） 東京都から愛知県へ移動
【視察】名古屋城
【ホストファミリー対面式】
2 月 15 日（日曜日） 【ホームステイ】名古屋市
【ホストファミリー歓送会】
2 月 16 日（月曜日） 【学校交流（文化体験を含む）】中京大学（茶道体験）
愛知県から東京都へ移動
2 月 17 日（火曜日） 【表敬訪問】高円宮親王妃久子殿下
【視察】TEPIA 先端技術館
【表敬訪問】尾上 定正 内閣総理大臣補佐官
【視察】明治神宮・原宿（日本のポップカルチャー）

- 2月18日（水曜日） 【視察】清澄庭園・深川江戸資料館
東京都から神奈川県へ移動
【学校交流】アメリカ・カナダ大学連合日本研究センター（IUC）
神奈川県から東京都へ移動
- 2月19日（木曜日） 【ワークショップ】報告会準備（訪日成果のとりまとめ、帰国後の活動計画（アクション・プラン）の作成）
【報告会】訪日成果・帰国後の活動計画発表
成田国際空港及び羽田空港より出国

2. 記録写真

招へいプログラム

	
2026年2月14日【視察】名古屋城	2026年2月15日【ホームステイ】名古屋市
	
2026年2月15日【ホームステイ歓送会】	2026年2月16日【学校交流・文化体験】 中京大学
	
2026年2月17日【表敬訪問】 高円宮親王妃久子殿下 （注）写真は本報告書掲載のみ。SNS 公開は不可。	2026年2月17日【視察】 TEPIA 先端技術館

	
2026 年 2 月 18 日【視察】 清澄庭園	2026 年 2 月 18 日【学校交流】アメリカ・カナダ 大学連合日本研究センター（IUC）
	
2026 年 2 月 19 日【報告会】	2026 年 2 月 19 日【報告会】集合写真

3. 参加者の感想（抜粋）

◆ 米国 大学生

このプログラム全体を通して、世界はそれほど大きなものではないということ、そしてお互いを理解し尊重し合うことができれば、世界はより良い場所になり得るのだということに気づきました。

◆ カナダ 大学生

名古屋でのホームステイや中京大学との交流は、このプログラムの中でも特に印象に残っている、大好きな体験の一つです。ホストファミリーはとても親切で温かく迎えてくださり、交流やホームステイのどちらにおいても、私たちのために素晴らしい経験となるよう多くの配慮と努力がなされていることを強く感じました。

◆ カナダ 大学生

ホストファミリーのお宅に滞在している間に受けたおもてなしや優しさには、深く感動しました。皆さんは私たちをととても温かくもてなして下さり、その優しさは決して忘れません。
また、中京大学での交流にも感銘を受けました。交流を担当して下さった国際交流学生団体 VOICE の皆さんの発表は楽しく工夫にあふれており、書道や折り紙、ゲームなどのアクティビティもとても楽しく、充実した時間を過ごすことができました。

4. 受入れ側の感想（抜粋）

◆ 視察先関係者

貴プログラムの訪日団として来日したことをきっかけに、当センターに入学をした学生が「先輩」となって、今回の参加者の皆さまをお迎えできたことは光栄でありがたいことでした。

訪問するだけではなかなか知ることができない「日本」の一面と深さを交流によって知ることができたのではない、大変有意義なプログラムだったと思います。

◆ ホストファミリー

食事や言葉が通じるか不安でしたが、実際には食事も楽しくでき、日本語もとても上手で、私たちの日本語での会話も 8 割ほど理解してくれたので、とても助かりました。

日本語が堪能だと感じていましたが、カラオケに行っても色々な日本の歌を知っていて上手に歌えたので驚きました。礼儀正しく、敬語や丁寧な話し方、言葉遣いが綺麗で、感心しました。また、最後の送別会で日本人の子たちが自分の気持ちを英語で話していることも感心しました。今後もっと自分の英語力を上げるよう努力したいと思いました。

◆ 交流校生徒

まず初めに米国とカナダの学生の方々の日本語が非常に上手なことに驚きました。また日本の魅力や好きなところを話してもらい、これまで当たり前だと思っていたことが他国の人からみたら素敵だと思える日本の部分が見えてとても嬉しくなりました。

お互いの国のダンスを共有したことが印象に残っています。日本は盆踊り、米国では Cha Cha Slide のダンスをみんなで一緒になって踊ったのが本当に楽しかったです。

参加する前は英語で会話できなかったらどうしよう、会話に詰まったらどうしようなど、不安が多くありました。しかし、このイベントを通じて、外国人の方々が私の生まれた国である日本に興味を持って下さっているということが何より嬉しかったです。そしてみなさん優しい方ばかりで、この時間だけでは足りないと感じました。もっと日本の魅力を伝えていろんな国の方々と英語で話したいと思わせてくれるきっかけになりました。

5. 参加者の対外発信（抜粋）、報道記事等

	
2026 年 2 月 15 日 (Facebook) カナダ 大学生 私たちは、今日ホストファミリーの皆さんと大変素晴らしい時間を過ごしました。ご自宅はとても	2026 年 2 月 19 日 (Instagram) 米国 大学生 この 1 週間、日米の友好交流事業である「カケハシ・プロジェクト」に参加するという大変貴重な

趣のある伝統的な日本家屋で、心温まる雰囲気にも包まれていました。 朝は手作りの美味しい朝食を用意していただき、その後、トヨタ博物館を訪れました。昼食は地元のカフェで取り、その後、名古屋市の大通りへ買い物に出かけました。 しかし楽しい時間はあっという間に過ぎ、最後はお別れの時を迎えました。滞在中の温かいおもてなしには、感謝の気持ちをどれだけ言葉にしても足りないほどです。短い期間ではありましたが、私にとって決して忘れることのできない大変貴重な経験となりました。	機会を頂きました。今回このような機会をいただけたことに心から感謝していますし、その中で本当にたくさんの素敵な友人と出会うことができました。本プログラムを支えてくださったすべての関係者の皆さま、そして受け入れてくださったホストの皆さまに、心より感謝申し上げます。 今回の滞在で特に印象に残っているのは、ホームステイ、中京大学での交流、そして深川江戸資料館の見学です。豊田市でのホームステイでは、とても温かいご家族が日常生活を紹介してくださり、日本での暮らしを身近に感じることができました（ぜひまた訪れたいと思っています）。中京大学の学生の皆さんも本当に親切で、交流の時間はとても充実していました。また、江戸時代の文学が好きな私にとって、深川江戸資料館での視察は特に思い出深いものとなりました。これから活動報告の準備を進めますが、この1週間を振り返るたびに、これまでにお話ししたすべての方々への感謝の気持ちでいっぱいになります。本当にありがとうございました。
On the 2nd and 3rd days of #Kakehashi2025, we took the Shinkansen to Nagoya prefecture! The view of Mt. Fuji from the window made us all elated for the trip. Once in Nagoya, we saw the castle in the center of the city and enjoyed the regional cuisine. Then, we kicked off the homestay! Our host family took me and Karson Miles to Gifu prefecture, where we took in the wide and natural scenery. The entire family's hospitality and graciousness was truly a gift. One of the best parts of #Kakehashi is how we are able to see the parts of Japan that we wouldn't be able to as a tourist. One major takeaway I had was that even across cultures, there is always an opportunity to build understanding and compassion among us. Through these posts I hope to inspire people to connect with people from Japan. #Kakehashiproject 	
2026 年 2 月 19 日 (Facebook) 米国 大学生 カケハシ 2025 の 2 日目と 3 日目には、新幹線に乗って名古屋へ向かいました。車窓から見た富士山の景色に、参加者全員の気持ちも一気に高まりました。	2026 年 2 月 22 日 (Instagram) カナダ 大学生 私は二日前に、日本政府が推進する対日理解促進交流プログラム「カケハシ・プロジェクト」(日本と北米を人と人との交流を通じて結ぶ取り組み)への参加を終えて帰国しました。州のスピーチコ

名古屋に到着してからは、市の中心にある名古屋城を見学し、地域ならではの料理も楽しみました。その後はいよいよホームステイがスタートしました。ホストファミリーは、私たちを岐阜県へ連れて行ってくださり、広々とした自然豊かな景色を満喫することができました。ご家族の温かいおもてなしと心遣いは、本当にかけがえのない贈り物のように感じました。

今回のプログラムで特に印象的だったのは、一般的な観光ではなかなか訪れることのできない日本の一面を見ることができた点です。

また、今回強く感じたのは、文化が違っていても、お互いに理解や思いやりを築く機会は必ずあるということです。これらの投稿を通して、より多くの方が日本の方々とつながるきっかけになれば嬉しく思います。

ンテストでの成果が認められ、参加者として選抜していただいたことは大変光栄であり、この一週間のプログラムは、忘れがたい体験となりました。滞在中は、多くの貴重な経験をするとともに、素晴らしい方々に囲まれ、非常に充実した時間を過ごすことができました。日本に行くことは長年の夢でしたが、今回の訪問によってその思いはいっそう強まりました。実のところ、来月すでに再訪する予定もあり、日本への関心と意欲がますます高まっています。



2026 年 2 月 25 日（アメリカ・カナダ大学連合日本研究センター（IUC）の Facebook）

「カケハシ・プロジェクトの一環として、米国とカナダから来日した 22 名の学生の方たちと交流」

IUC は 2 月 18 日に、外務省主催の「カケハシ・プロジェクト」の一環として、米国とカナダから来日した 22 名の学生の方たちと交流プログラムを行いました。

IUC 在校生 10 名が、大学院への進学、JET プログラムへの参加、日本での留学経験など、それぞれの体験談を来校した皆さんと共有し、たくさんの質問にお答えしました。



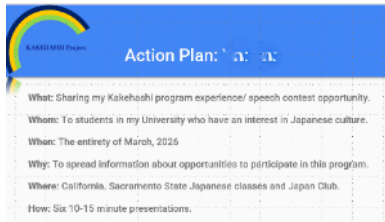
2026 年 2 月 17 日（宮内庁の Web サイト）

「カケハシ・プロジェクト日本語弁論大会成績優秀者（米）・日本語学習者（加）・ジャパンプール（加）合同招へい」被招へい者等ご引見（高円宮邸）

今回の IUC 在校生の中には、2024 年にカケハシ・プロジェクトで来日したことがきっかけで IUC に入学したカケハシ同窓生もいて、「先輩」として積極的に関わってくれました。 プログラムに参加して下さった皆さん、ありがとうございました。大変有意義な時間でした。	
--	--

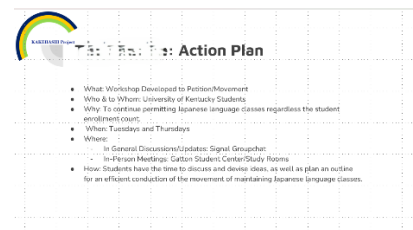
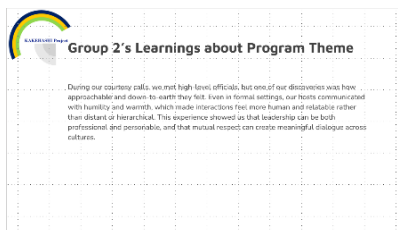
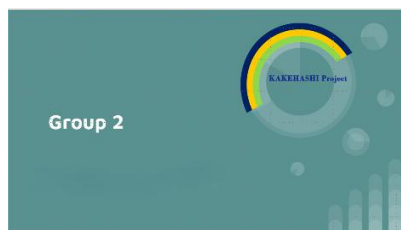
6. 報告会での訪日成果とアクション・プラン発表（抜粋）

訪問地：東京、愛知県、神奈川県 全 4 グループ発表

全グループ共通		
【成果の発表】 ◆ プログラムでの学び 国全体が一丸となって人を温かく迎え入れる姿勢や、近代的な建築・技術と伝統的な文化が調和して共存している在り方を体感しました。また、これまで出会うことのなかった人々と深い友情を築き、新たな出会いの中で長く続く関係を育むことの大切さと喜びを学びました。交通から日常のマナーに至るまで、摩擦を減らすための多くの取り組みがあり、社会では調和と思いやりが重視されていました。 ◆ 日本での経験を将来どう生かすか IUC の学生による留学経験や注意点に関する話を聞き、日本での就職活動へのアプローチ方法の情報なども得ることもでき、また日本での交流を通じて英語に不安を抱える留学生に対して親しみやすく接することの重要性などを学び、これにより自分の専門分野に対する考え方や姿勢を改めることができ、将来の方向性がより明確になりました。 （アクション・プランは各グループ、一人ずつ発表）		
グループ 1（米国）		
		
【アクション・プラン】 1. 今学期、私は「カケハシ・プロジェクト」での経験やサウスカロライナ日米協会（JAASC）でのボランティア活動について、日本に興味のある学生や JAASC の関係者に共有する予定です。この発表を通して、体験を通じて日本の文化を学ぶことの大切さを伝え、地域社会の支援にもつながたいと考えています。発表は、コロラド大学コロラドスプリングス校（UCCS）日本語クラブや日本語クラス、JAASC のオフィスで、私が帰国次第開始する予定です。 2. オレゴン州立大学の日本学生会及び日本語クラブで、日本に興味のある学生や日本語を学んでいる約 150 名を対象に、プログラムでの自分の経験を発表します。この発表の目的は、日本について学ぶことをより身近で親しみやすいものにすることです。		

3. 2026 年のオースティン地域日本語スピーチコンテストの会長として、参加者を励まし、教授や学生、聴衆にカケハシ・プログラムを紹介することで、このプログラムの普及に努めます。2026 年 4 月から始まる日本の大学での留学中に、学生やクラブメンバー・同僚と協力して、米国に対し良い印象を持ってもらえるような紹介をし、友好を深め、将来につながる大切なつながりを築いていきます。
4. 私はすでに、カケハシ・プロジェクトでの経験を SNS で発信し始めており、今後も続ける予定です。また、地元シアトルの領事館と協力して、今回の素晴らしい体験について公刊記事を書いています。中京大学や IUC など、この旅で知った情報を友人や家族、同僚に紹介する予定です。この忘れられない経験から多くを学び、今後の世界各地での教育活動にも活かしていきます。
5. 2026 年 3 月、サクラメント州立大学の日本語クラスや日本クラブで、日本文化に関心のある学生に向けて、カケハシ・プロジェクトでの経験を話す会やスピーチコンテストの機会を提供します。目的は、このプログラムに参加する機会について学生に知らせることです。
6. 第 27 回サンディエゴ日本語スピーチコンテストの参加者やサンディエゴアカデミーの日本語学習者を対象に、カケハシ・プロジェクトと私の日本語学習の経験について 2 回の英語プレゼンテーションを行います。学生が自分の興味を追求し、新しい挑戦や経験の機会を積極的に探すよう促すのが目的です。

グループ 2 (米国)



【アクション・プラン】

1. 5 月の「茶 Tea-Time」日本語学習グループで、「大きな世界、小さな世界：カケハシ・プロジェクトと日米間の架け橋」というテーマでデポール大学日本研究学科に対して、旅の写真や体験談を交えた発表と質疑応答を行います。
2. カケハシ・プロジェクトでの経験とこれまでの学びがどのように役立ったかについて、フロリダ中央大学の新しい日本語ウェブサイト向けに記事を書きます。また、UF の日本語クラブと連携して、日本からの留学生向けにオンラインやキャンパスでのイベントを企画し、米国文化を紹介しつつ日本文化との交流を促進し、関連する学生団体に広く紹介します。
3. 今回の経験について、母校の高校とペンシルベニア州立大学で発表を行い、それぞれ質疑応答の時間を設けます。高校の言語・文化コースの生徒や大学の日本語学生など、関心の高い聴衆を対象とし、高校の日本語プログラムへの参加を促すことも期待しています。発表ではパワーポイントを使用し、学校スタッフと調整して実施します。
4. 私は、カケハシ・プロジェクト参加者が日々の発見を記録し、日本での体験を振り返り、ソーシャルメディアで共有できる投稿を作成するためのモバイルアプリのプロトタイプを開発します。Swift を使って個人でアプリを開発し、日記機能、インサイトカード、アクションプランガイドを含める予定です。MVP は帰国後 1~2 か月以内に完成させ、カケハシのハッシュタグを使ってアプリや振り返りをオンラインで共有し、文化理解を促進します。

5. 私は、ケンタッキー大学の学生を対象に、学生数に関わらず日本語クラスの継続を求める請願・運動を支援するワークショップを企画します。会議は火曜と木曜に行い、一般的な議論や最新情報は Signal のグループチャットで共有し、対面での計画会議は Gatton Student Center のスタディールームで実施します。学生たちはこの時間を使ってアイデアを話し合い、日本語プログラムを維持するための効果的な戦略を立てます。

グループ 3 (カナダ)



【アクション・プラン】

1. カケハシ・プロジェクトのプレゼンテーションを行い、日本での体験や個人的な気づきを、カナダ・カルガリー大学の学生・教職員及び日本総領事館からのゲストと共有します。
2. トロント（オンタリオ州）で開催されるオンタリオ州日本語弁論大会で、日本について、自身の日本語学習の経験やカケハシ・プロジェクトの役割を紹介し、オンタリオ州の日本語学習者にコミュニティ活動への参加を促す、視覚的に工夫したプレゼンテーションを行います。
3. クイーンズ大学及びキングストンや世界のコミュニティ向けに、経験を共有し同じような目標を追求することを促す記事とビデオブログを、日本人教授と協力して作成します。
4. カケハシ・プログラムでの体験をまとめた YouTube 動画を作成し、写真や動画、ナレーションを組み合わせて、興味のある人と共有します。動画は自分で作成し、日本語の先生にリンクを生徒と共有してもらう予定です。
5. 今年中に、JET プログラムとビクトリア大学（UVic）のスピーチコンテストのアシスタントを務め、日本文化とのつながりを維持しながら、日本とカナダの学生に自分の経験を共有する予定です。JET や教授とのやり取りを通じて行います。

グループ 4 (カナダ)



【アクション・プラン】

1. 私の気づきや学びを発表し、2026 年ジャパンボウル・オンタリオの参加者に向けて、カケハシ・プログラムでの体験を Zoom で共有し、日本への学びを続けてもらえるようにしたいと思います。
2. 学校のクラブ活動（JSA）に参加したり、友達や家族にジャパンボウルのことを話したりして、日本文化を広めたいと思います。

3. カケハシ 2025 での経験をもとに、日本の文化や生活についてのガイドのような役割を果たすブログやウェブサイトを作りたいと思います。
4. 学校の日本文化クラブに向けて、カケハシ・プログラムでの体験を発表しようと思います。クラブには日本に興味を持つ多くのメンバーがいるので、学びを続けてもらえるように促したいです。学期が終わる前に、クラブのリーダーに連絡して発表を行う予定です。
5. 学校でジャパnboulをより多くの生徒に知ってもらい、参加の機会を広げるとともに、日本文化や日本訪問への関心を高め、城内中学校との交流プログラムの復活を推進したいと思います。

実施団体：一般財団法人日本国際協力センター（JICE）